

## 岐阜労働局長によるベストプラクティス企業への職場訪問結果

11月の「過重労働解消キャンペーン」の取組として、報道機関に公開の上で、岐阜労働局長（稲原俊浩）自らが長時間労働削減に取り組んでいるベストプラクティス（課題の克服や問題解決のためのすぐれた実践例、優良事例）企業への職場訪問を行いました。

### ○訪問実施日

11月9日（木）

### ○訪問企業

株式会社鶴飼 本社  
各務原市金属団地 114 番地

### ○内容

最初に、稲原労働局長から株式会社鶴飼の代表取締役柳原弘幸社長に新はつらつ職場づくり宣言の宣言証等の授与を行いました。株式会社鶴飼は、新はつらつ職場づくり宣言の前身であるはつらつ職場づくり宣言を平成 21 年に宣言済みで、残業時間の削減等の取組を行っていましたが、この度、「新」はつらつ職場づくり宣言にリニューアルされたことを機に内容を見直して新たに登録されたものです。

次に株式会社鶴飼から労働時間管理や時間外労働削減等の取組状況について説明を受けた後、稲原労働局長は柳原社長と会社の取組等について、意見交換を行いました。

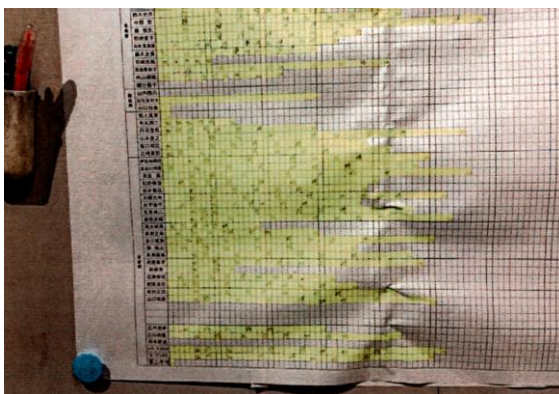
会社では、日々の残業時間をグラフにして見える化したり、ノー残業デーの徹底を行ったほか、毎週部署間で話し合い柔軟な応援態勢を組んだり、業務の効率化等の取組を行っており、平成 28 年は前年比で 1 人当たりの残業時間が塗装工程では半減し、会社全体でも 2 割減少したとの説明がありました。

さらに、人手不足に対応する高齢者の活用、育児・介護を行う者の支援、人材育成の支援等働き方の見直しにも力を入れており、これらの取組について柳原社長は、「これまでやっていた事を徹底し、全員参加で取り組んでいる。社員 1 人 1 人が成長できる働きやすい職場を目指したい。」とのことでした。

その後、稲原労働局長は同社の従業員三名と会社の取組等について意見交換を行いました。

従業員からは「個人任せになっていた残業管理を徹底し、職場のみんなで協力して働き、早く帰ろうという雰囲気になった。」「効率的に働くよう工夫するようになった。医者や買い物に行けるようになった。」といった意見が出されました。

工場内の巡視を行った後、稲原労働局長からは、「今後も先進的に取り組んでいる企業を紹介したい。一層の取組推進をお願いしたい。」と述べて職場訪問を終えました。



日々の残業時間をグラフにして管理



稲原労働局長と従業員が意見交換しているところ